3月24日(日)

桜鯛のねぎ塩タレのせとほたるいか……

涙の春風

～はるかぜ～

1パック（8カン入り）

1,000円（税込）

卒業生の皆さんおめでとうございます！

先日季節外れの雪が降り、久しぶりに猫もこたつで丸くなっておりました。

私の娘も今月専門学校を卒業致しました。式に参加するため嫁と2人で広島まで行き、娘は先に会場に入るため、嫁と2人で、時間潰すことに…。街をブラブラとしようとしてたら娘から「これ待ち時間に読んどいて」と、手紙を渡されました。コーヒーでも飲もうと、カフェに入り手紙を広げる…涙が出そうになる…。

内容は、幼少期からの父への思い等が綴られていて、感謝や寂しかった事、嬉しかった事等が沢山書かれていました。手紙を読んだ後、私は申し訳ないやら、嬉しいやらで自分の感情を整理するのに大変でした笑。

今回の握りに入っている桜鯛のネギ塩タレのせは、その時に娘と食べに行ったお寿司屋さんで、娘が喜んでいたのを思いだし、急遽勝手にトッピングしちゃいました。

店長に「なにこれ？」と速攻突っ込まれる…「ふーん」と気の無い返事と一緒に試食…いいね！とオッケーもらい決定！そしたら太刀魚にも合うねと、決定！今の季節ならボイルホタルイカも入れときたいと決定！それならやっぱり酢味噌で食べたいと、トッピング！

今回は、旬の魚を選ぶのは勿論、食べ方として、トッピングにも力を入れました。皆さんにも是非大切な思い出と一緒に、私たちの考えたお寿司で祝って頂きたいと思います。

最後に、わたくし事ですが、子供達が全員卒業し就職します。優しく、親孝行な子供達に恵まれ、本当に幸せです。この場を借りて有り難うと伝えさせて頂きます。感謝!!

西田鮮魚店　主任　奥原　歩久斗

西田鮮魚店　☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489（旧庄原市内はご自宅に配達）

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

『庄原にスタバ？⑤ 妄想からのスタート』

鮮コーポレーション㈱　代表取締役会長　西田　昌史

なんでもそうだが、最初にポンと頭に浮かんだときは、「これはいい、いける」と思う。妄想の始まりだ。それを、周りの誰かに話すと、「おもしろいね」と言ってもらえたり、「ふ～ん」と、ただ、聞き流されたり、いきなり「現実はそんなに甘くないよ」と、身も蓋もない言い方をされたり、さまざまだ。ふつう、この時点で頭から消え去る。

しかし、それでも根強く頭の片隅に残り、考え続けていると、自分の中で少しずつ少しずつ、考えが膨らんでいき、なんだろう、「やっぱり、いけるんじゃないか」と確信みたいなものが湧いてくる。そこで、最初に「おもしろい」と言ってくれた人にもう一度、話してみる。何人かは「やってみりゃあ、いいじゃないか」と、さらに背中を押してくれる。みんながそう言ってくれるわけじゃぁないが、それならと、おそるおそる、いろんなところで口にしてみる。

すると、自分のアンテナに引っかかってくることが増える。思わぬ方から、「それ、いいね」とか「ぼくも、そう思っとったんよ」とかいう人と出会ったりする。仲間ができる。なんとなくだが、元気が出る。「やれるんじゃないか？」淡い希望が頭をもたげる。

そして、いよいよ行動に移す。事例を調べる。専門家と言われる人の意見を聞く。関係者に会う。

『庄原にスタバ！！』はそういう風にして始まった。

ジョイフルも老朽化し、耐震構造的にも不適で解体しなければいけないという現実に直面している。

『どうするジョイフル？』。解体した後のジョイフルのことも考えなければいけない。考えれば考えるほど、このままの庄原ではダメだと思うようになった。このチラシの裏の手紙で、そんなことを書いた。

ある日、大原さんから電話をいただいた。「こんど、同級生が集まって、これからの庄原のことを話し合うんじゃけど来てくれん？」私より3才上の大原さんからの誘いだ。「喜んで！」。チラシの裏を見て、電話を下さったらしい。誠ちゃんを誘って行った。

『庄原の未来を考える会』というのだそうだ。そこで、大原さんの甥っ子の平本さんを紹介された。今は退職されたが、以前は『TUTAYA』の『カルチャーコンビニエンスクラブ（CCC）』で活躍されていたらしい。甥っ子といっても、私より5つだったか6つだったか若いだけ。彼の話を聞いた。「庄原をなんとかせにゃぁいけん」。その日は、それで終わった。

何週間かして2回目の誘いがあった。行くと、平本さんと一緒に仕事をされていたという高橋さんとオンラインで繋がっていた。彼は、この手紙で何度か書いた岡山県の高梁市の『高梁市図書館』を立ち上げたのだが、この『図書館』に『蔦屋書店』と『スタバ』を併設した最初の施設である、佐賀県の武雄市の『武雄市図書館』を立ち上げた人だともいう。今は彼が中心となって、全国に展開しているのだそうだ。

高橋さんが、その図書館の成り立ちからその経過、そして現在の状況を一時間くらい話してくれた。そして、みんなで質疑応答。話すうち、話が具体化していった。

この日、『庄原市図書館』『蔦屋書店』そして『スタバ』ができればいいなと強く思った。いや、強く強く思った。

そして『国営備北丘陵公園』が浮かんだ。妄想が進む。

2カ月後、多忙な高橋さんにお願いして庄原に来てもらった。私の中では、丘陵公園を見てもらえば、公園の中に作ろうと提案すれば、必ず、その気になってくれるという自信があった。誠ちゃんは、私以上に、その気満々だった。

『庄原の未来を語る会』のメンバーが集まり県立大学、市民会館、ジョイフルを案内し、最後に丘陵公園に行った。

北口から入り『ふらり』の建物の前にたった。気に入ってくれるはずだ。私は、熱い視線で彼を見た。しかし、彼は戸惑っているようだった。後で聞いたのだが、「この建物は何なんですか？」と、一緒にいた公園のスタッフに尋ねたらしい。その後のミーティングでおそるおそる彼に尋ねてみた。

「どうですか？」

「壁におおわれて中の様子が見えませんよね。なにをする建物かわかりにくいですね。」

「どうすればいいですか？」

「そうですね、強いてなんとかするとしたら、私なら壁を取っ払います。」

確かに。『スタバ』は、どこも完全にオープンで開放的だ。あのおしゃれ感は、そんなところからきているのだろう。

誠ちゃんに言われたらしい。まったく新しく建て替えるなら、考えられないでもないかもしれないと。

しかし、それはちょっと…。何億円か、かかりそうだし…。第一、国のものだ。妄想、万事休す。

これはいい、と思えるアイデアも進めるうちに、次々と問題が出てきて、やがて行き詰まり消滅してしまう。とくに、お金の問題がからむと諦めざるを得ない状況に陥る。ただの妄想になってしまう。私も何度、悔しい思いをしたことか。

しかし、けっして諦めたわけではない。

高橋さんは、こうも言われた。遠くからお客様を呼ぼうとしたら、少なくとも、そこに3つ以上の観光スポットが必要だと。あるじゃないか。『国営丘陵公園』『ラフォーレ』『夢さくら』そして『ジョイフル』。

今のジョイフルではムリだが、これから作るジョイフルは、遠くからでも行ってみたいと思えるものにすればいい。そういう意味では、近隣型の三次プラザのようなものではなく、なにかに特化した方がいい。

そこから『庄原生鮮市場』という妄想が私を捉えた。

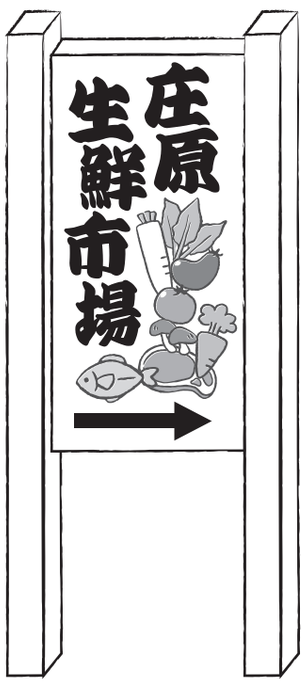
その妄想のきっかけになったのが『道の駅たかの』だ。道の駅ならどこでも繁栄しているのではない。逆に道の駅という名前に頼り切って、廃墟のようになっている施設をいくつも見てきた。

『道の駅たかの』は、地元の野菜をしっかりアピールし、漬物などの商品を開発し、品物をきらすことなく補充し続ける、働く人たちの生真面目さとエネルギーが繁盛を生み出しているように私には見える。『道の駅たかの』が次のジョイフルのヒントだ。それが生鮮市場につながる。

私には『庄原生鮮市場』という特大看板が丘陵公園の北口の交差点に立ち、ジョイフルに向けて矢印が描かれている景色が見えている。今は、妄想でしかないが、そんな妄想が『スタバ』を庄原につくる力になるのではないか。

国営備北丘陵公園北口にスタバをつくる。

そのためにも『庄原生鮮市場』という妄想を現実のものにしたい。



2024年3月24日